

## 専門委員会開催報告

専門委員会名	第11回「シビアアクシデント時の核分裂生成物挙動」研究専門委員会
開催日時	2021年3月3日(水) 10:00 ~ 12:00
開催場所	Web会議(学会所有 Zoom 利用)
参加人数	38名、勝村主査、内田幹事、逢坂幹事、高木幹事、唐澤幹事、他
議 事	<p>1. 本研究専門委員会の活動実績と今後の課題;春の学会(2H_PL)で発表予定</p> <p>(1) 実機での FP 挙動把握の実績と課題 (高木幹事)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術課題抽出 WG (WG3) の目的は、プラントデータから FP マスバランスを定量的に評価することで、8回の活動で、15件の報告があった。</li> <li>・廃炉作業に係る FP 関連の技術課題として、「調査に伴う汚染データの取得」や「FP 核種の化学形態の同定」などを挙げた。</li> </ul> <p>(2) WG1 の成果と課題 (逢坂幹事)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・FP 実験 WG (WG1) の目的は、実機 FP 物理化学現象を適切に表現可能なモデルに構築することを目的とし、FP 挙動の調査による現象把握と、1F 廃炉に係る研究課題への対応に関し把握した現象を評価した。また、NDF6 課題との関係性等を考察した。</li> <li>・今後の課題として、「把握すべき現象に不足は無いか、さらに深掘り/詳細検討すべきものはどれか」などを挙げた。</li> </ul> <p>(3) 短期/長期 FP 挙動評価の実績と課題 (唐澤幹事)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベンチマーク WG (WG2) の目的は、ソースターム評価の精度向上に対する課題をまとめることで、FP 挙動モデルの課題を抽出し、技術報告書にまとめた。</li> <li>・今後の課題として、「SA 解析コードの高度化・高信頼化」と「廃炉計画・作業への貢献のための廃炉解析の提案」を挙げた。</li> </ul> <p>(4) 本委員会 4 年間の活動成果の総括と今後への展開 (和田幹事)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・FP 挙動に関する情報の共有化、1F の FP 関連データの収集、評価を図り、共通技術基盤上に新たな技術者集団を構築した。</li> <li>・学会誌の解説記事および技術報告書をまとめ、現場実務者、若手技術者との協働を通して技術の伝承を図った。</li> </ul> <p>2. 技術報告書の発行について (内田幹事)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4年間の成果をまとめ、学会予算で100部印刷し、4000¥+tax で販売予定。</li> </ul> <p>3. 次期研究専門委員会の設立について (内田幹事)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2/26の企画委員会で「1F 廃炉に係る FP 挙動」研究専門委員会申請書の承認された。</li> </ul>
備 考	勝村主査から、この4年間の活動に協力いただいた委員に感謝の意が表された。

## 専門委員会開催報告

専門委員会名	第10回「シビアアクシデント時の核分裂生成物挙動」研究専門委員会
開催日時	2020年10月6日(火) 13:30 ~ 15:45
開催場所	Web会議(学会所有 Zoom 利用)
参加人数	32名、勝村主査、内田幹事、逢坂幹事、高木幹事、唐澤幹事、他
議 事	<p>1. 講演「1F 廃炉のための技術戦略プラン 2020 について」(NDF; 中村氏)</p> <p>・本技術戦略プランは、東電が主体的に廃炉に取り組むことを示した廃炉中長期実行プランの策定にも指針を与えるものであり、事故炉の放射性物質に起因するリスクの継続的・速やかな低減を基本方針とし、管理重要度の低減により、安全・確実・合理的・迅速・現場指向の5つの基本的考え方の下、デブリ等のリスク源を安定管理とすることを目的として、燃料デブリ取り出し、廃棄物対策、使用済燃料プールからの燃料取り出し、廃炉の円滑な推進に向けた分析結果の活用についての技術戦略を定めた。</p> <p>2. 本研究専門委員会の主要成果と今後の課題、及びその対応</p> <p>(1) FP 実験 WG(逢坂幹事); 1F 廃炉及び軽水炉安全性向上に資するための FP 物理化学現象モデル構築のための実験検討を目的として、現象をカテゴリー分けし、各カテゴリーに関する研究や動向について計 22 の調査を行った。現在、1F 廃炉への貢献の視点として NDF 6 課題との対応等の視点で評価を実施中。</p> <p>(2) ベンチマーク評価 WG(唐澤幹事); SA 解析コードに組込まれている FP 挙動評価モデルの Phebus FP 試験のベンチマーク評価による理解、SA 解析コードによる 1F 内の Cs 分布評価に対する技術課題の抽出、SA 解析コードによるソースターム評価の精度向上に対する課題をまとめることを目的として計 12 回の会合を開催。</p> <p>(3) 技術課題抽出 WG(高木幹事); 実機での FP 関連実測データを整理し、これまでに報告された 1F での FP 挙動に関わる状況把握の現状をまとめるとともに、廃炉作業に係わる FP 関連の技術課題(作業計画に役立つものとするを目標)の整理と今後の対応について言及することを目的として、現場の状況調査結果をまとめた。</p> <p>3. 技術報告書の進捗状況 (内田幹事)</p> <p>・4 年間の成果をまとめる技術報告書のスケジュールと内容を確認した。</p> <p>4. 来年度以降の進め方 (内田幹事)</p> <p>・今後の課題は、廃炉への貢献を目指して、技術的また工程的な視点から十分吟味し、次期研究専門委員会に引き継ぐ。上記議論では、努めて若手研究者、技術者の参加を求め、OJT を図る。</p>
備 考	年度内にもう一回委員会を開催予定。